

海外研修便り①



2016年2月23日

西下病棟 看護師 松井智康

私は2016年2月6日より、アメリカ合衆国メリーランド州の国立衛生研究所 (National Institute of Health) へ研修に来ています。

研修の目的はNIAAA (National Institute on Alcohol Abuse and Alcoholism) においてアルコール研究活動の実際を学び当院全体のアルコール依存治療に関する質の向上に寄与することです。NIHは300エーカー (東京ドームの92個分) の広い敷地内に75の建物がある世界最大の研究所です。日本人研究者もおりますがあまりに施設の規模が大きいため滅多にお会いすることはありません。

住まいはMaryland州ベテスタという町です。まだまだ氷点下になることがあり、先日は大雪のためNIHがクローズすることもありました。水周りや電話回線の故障は頻繁にあります。現地の方は「まあいずれ直ると思うよ。」と動じません。NIHへの移動手段は地下鉄とバスがあります。定刻に発着することはまずありませんが、そのことでクレームをつける方は1人もいませんでした。



NIH 最寄「Medical Center 駅」



Valentine's Day

研修がはじまり約3週間が経過しました。訪米後しばらく生活環境のセッティングや事務手続きに翻弄されておりましたが、オフィスのVijay先生をはじめ当院の佐久間先生ご夫婦、研究者の皆様、不動産屋の笠松様その他大勢の方にサポートしていただきおかげ様で軌道に乗せることができました。「スムーズにオフィスへ辿りつくことができるようになった」など小さなことでも1つ1つ達成できるごとに前進しているという実感があります。先週は新規職員に用意されているオンライントレーニングを終了しました。こちらではNIHにまつわる歴史や感染予防について学ぶことができます。今週から病棟にて研修が始まります。

アルコール依存症の治療にあたる看護師としてその資を学ぶことは勿論、言語においてもより一層の勉強が必要です。人種が混在しているアメリカにおいて、少数の日本人は不審がられても不思議ではありません。まずは挨拶から。大きな声で「Good morning!」「How are you?」これでほとんどは解決です。会話を成立させるためには、綺麗に文章を組み立てるよりも何とかして伝えようとする気持ちと行動が重要であると日々痛感しています。これは日本でのコミュニケーションにおいても同様だと考えます。



自宅前の様子

悔いのないよう約半年間で多くを学び、アメリカ合衆国での生活を公私共に充実させたいと思っています。



NIH 敷地内の建物